

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の安全」「地域に根ざした」を理念に掲げ、理念をホームの見やすさを明示している		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々の実践に向け取り組んでいる (地域の催し物等に参加し結果を様子・情報集めを行う。消防訓練を1回実施している。)		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者の生活や、催し物や、面会促進など、施設へ参加し頂き、「この施設の理念が日々の生活の中で達成・継続しているか」を、知り、理解を促している。	○	地域への理解は、「生活の場を身近に見せる事」を難かしく、家族へのインターネットの方針での促進が出来兼ねている事が現状である。この施設があり、施設以外にもどのような事が行われているかを冊子を作成して、施設利用者、職員のみならず、外に出向き理念を感じてもらい受け取り様子を報告している。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方から、時期の味覚を届け下さり、養護学校との交流、地域のボランティアの来訪、地域の催し物参加、等行っている		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の参加は積極的に行っているが、自治会、老人会等には参加していない。	○	利用者の病状や、地域の状況などを理解し下さっているが、「近い将来の将来」への見方がある事も否めない。どの程度か、どの交流に参加か、結果の報告を職員等と話し合い、先見の目を

磨き下す

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状で、地域の高齢者等の暮らしに役立つ事も話し合、ではない	○	地域の利用者が、何に「よりよくなる」のか?を知り、地域の方と会ってある場を多く持つ様に取り組んで行きたい。限られた認知症高齢者支援の場を
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、何かに違ふが、皆が実施している。外部評価、自己評価(社内内容)の正しい理解と方向性の違いを一定の事柄と様々に話し合っている。	○	話し合の内容で、決めた事を継続し、途中で見直しをかける。この体制を確立。どのような問題にも予測し、実行の結果を振り返り行う事を繰り返す。(やり直し)
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は必ず、何かしら形で現場に反映はしている。それを知らせて、現場で行うべき事を率先実行している	○	現場で行う事の執行が難しい事もある。日々のケア丁寧に行い、サービスの向上に今後を促す。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での交流以外に市町村へは事業内容の報告を行っている。設置法が地域包括支援センターの委託を受け、センターと連携を図り、地域の福祉ニーズの把握を行っている。養護学校の教員との連絡調整、消防署との連絡調整、地域医療との交流を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等、なかなか難しい内容の物は、研修へ参加し理解出来る様になっている。又、知識を得た知識は皆へ報告している。	○	全員の職員が研修を受けたい様に取り組む。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では、まだ「行っていない事」という共通理解をまず職員に促している。皆が皆で防止に努めている。	○	自宅に戻らぬから、施設へ戻らぬ方の身体ケアの強化は継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧に対応している。family 個別事項は必ず返答し、その場では答えられぬ質問は用紙にて、関係者へ伝わり、2週間以内の説明している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ポストの設置を行う。 「コミュニケーションの充実を図り、苦情報告も苦情報告と取り入れられる様に利用者関係を作っている。	○	苦情ポストにあまり情報が記入されない為、「何れもポスト」の作成を検討中。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の変化は毎週報告している(又、「1000時間」等の場合は「はいか？」等が12項目あり(施設での本人と接する機会に際しては様々に報告している)金銭に用紙にて書式を作成、定期報告は実施している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	13でも返答した通りであり、情報は11でも取り入れられる様、ポストの設置と関係の充実を目指して作っている。	○	苦情ポストにあまり情報が記入されない為「何れもポスト」の作成を検討中。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	-各ユニットに1人用意し意見交換を月1回実施している。 -施設長への直接報告 -会場の意見交換。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に依り、その調整は必ず行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常に行われている。代わり時は必ず利用者へ説明を行う。理解を頂いてから退職・異動を行う。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員への対応は、ミスター制を導入し、必ず1人の新人に対して仕事を振り落とさない。研修にも参加出来るようにしている。	○	設置法人内での研修の確保を運営者へ提案して行きたいと思っている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHC(同地域の)とネットワークを確立し、情報の共有や、活動報告等を行う。	○	ついでにこの情報は今後のネットワークの拡大と、内容の改善に役立てようとしている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室にマッサージ機や、TVを配置している。又、各職員と運営者は常に会話が盛んに行なわれ、特に運営者は各職員へ気を配っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長を始め、運営者は感謝の気持ちで常に持ち続け、現状の把握をして、向上心が持てるよう励みを与える場を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	モータリニグ"には時間を要し、 ゆっくり話を聴いてくる。本人の生活 の中から共通点(自令との)を見出し、 A-T-Nの深さをより良い物とあり。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	細かくモータリニグをやる様子はいい。 又、関係機関(2(faの3次はモチ34保子) 今更いどうしていたか?等の話しても伺う (関係機関 = 他施設)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援は「何か?」を本人、 faの生活環境を知らなから、俵子 サービスの種類も考慮して提案。対応に 努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	工夫しながら、本人の様子を伺い 1ヶ月位は職員・faの協力を元 careの確立、状況の把握を行っていた	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「何が出来るか」という概念ではなく、出来る所 で少し支援あり。これを基本に 関係を築いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は中立の立場を保ちながら、利用者を地域と共に支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	コミュニケーションの充実に図り、報連相を実践している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	さまざまなツールを利用し、ネット-コミュニケーションを確保し、又場所へは車いす散歩時にも訪問してやり取りしている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わり合いを確立させている。 コミュニケーションの機能か認知症の進行出車兼用車がある。	○	コミュニケーションが「行く兼用車」は対応は今後も職員が向に入り、人の輪を大切に出来る様継続する。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも関わりが持てる様に、関係の充実に入所時より作って大々している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討の外、 <u>相互に相談し</u> 、「希望」や「意向」を形に <u>押しな</u> がら把握に努めている	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に努めている。出来れば <u>今後の</u> 生活も施設内で実施できる様支援している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に努めている。特に、施設の生活音に <u>気</u> を配っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを作成する時間があり取り次ぎ員CMが担当職員や他の職員にコミュニケーションを課題に対する対応の方法等を確立。プランを立ってから再度職員にフィードバックを促す。プランは実行可能。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実行している。又必要物品等が不足したら、それは <u>優先</u> の物が等も優先して行っている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、深山の記録を元にしたケアプランから、生活の組み立て、仲間の変化etc～すべてを即座の為に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員配置や、1日の流れを変化させ支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署は毎月連絡をとり、半年に1回は合同に2回訓練をしている。社会資源は場に合わせて選べるから協力支援を実践している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	こちらはまだ実践していない。	○	リハビリ等必要となった時など(まだどの様なかまいる、どのようなかまいる)検討は考えている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	この様な利用者様の場合はありません。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	N等について、職員の付きとりの元、かかりつけ医の受診は確立している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と、職員にて、協力して、精神科の受診を行っている		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	Gには看護職が「現在いませんが、設置」3人内のNrsに、医療行為を依頼し、いつでも対応は対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	X院と利用者の状況は、ほぼ毎日HpのSMWとNrsと連絡を取り、情報交換を実施している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	中間施設のため、夕-ミルを支援の事は出来たが、10人(たかま)に「退院の時期はどうか?」を方向付けている。	○	faiには、まだ、利用者の状況が、夕-ミルを検討する程の状態にまで進んでいないが、方針をゆっくりに考えられている方が多いので、「ゆっくりに見直しの話し合い」を実施している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	Aへの利用者については、数名の利用者-そのfaiは今後の変化に備えて設置された内の特養では6個ある。	○	Aへの利用者-そのfaiは終末期に向けた話をするの検討が、行っている項目に組み込まれる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	移転先にはフェアシートを作成し 各所に提出した。また、移転 先の窓口職員を予め面通しし、 最小限のダメージに抑える事に注力		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシー確保は徹底に行っ ている。必要に応じてカギのかかり引き出し 等を利用している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	その人に合った話し方を言葉を選ばし 様にしていく。話し合いを「自己決定」 に至る様にしていく		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	本人の希望を基本ととしている。	○	本人以外に寝た。死にたい。オウチケル。TV見たい。TV見たい。希望と相手の意をどう組み合わせるべきか？職員による個人差があるのを統一を近々図りたいと思う。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	介助職員は理容・美容の技術者がおろ 為、本人の望むスタイルを施設内で確立 している。また、希望に応じて外部の理容 店に行けるよう努めている。		
---	---	--	--

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所が、一斉に食事を作ったり、フーズ作り お菓子や、フルーツプレートを利用し作り しる		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・飲み物、おやつは10人の嗜好に 合わせ2集めり集りに支援しる 現在タバコを吸う人はおいら、しらす、		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄スケジュールの作成・活用に加え、本人の タイミングに合った排泄を支援しる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10人の入浴に合わせ「こだわり」を大切 に支援しる	○	現在週3回(10時)の午後と支援 お時間を決めしるので、融通の為に 入浴支援の方を毎週検閲しおよう 思う。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	布団を干す、居室の明るさ、居室の温度 等細かに配慮しる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事の職業、はろりスガの趣味を 理解し、個人へ役割を持ちこたす。 はろり中の楽しみ、気晴らし、X1ハルを 持つ支援しる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は本人に任せざるを得ない。リスクが大きい。「お金の管理」の事をよく説明。書類は本人が在外行事などで使ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日行っている (天候の良い日は限られる)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援を週末に行う事が多い。又、本人に都合が悪い。外出へ行く機会を創出する。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者は(持ち物等)を準備して、使ってもらい、使えなかった場合は今度また使ってもらえるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室清掃、空調など、毎日行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全く行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のドアをこちらからかける事はなく、本人希望でかける事はまれにある。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に留意している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物に名前が貼られているか、どの部屋にしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が薬をトイレット(9)で取り除くことから内服を促している。 事故防止は常に心がけている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	カギは手当ての対応を1人で、各10人に「備え」を書き出した物を3度し。 訓練を定期的にしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	週/10は訓練し、地域との連携にも力を注いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	冊子の作成・配布への出し、各職員への 予防方法のポスター配付、 手洗消毒、食品は430等の手洗と利用		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒の徹底、清掃（器具・食器、 台所、洗剤等） 新鮮な安全でおいしい食材を業社に 毎週2袋2枚もらえる		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリーの階段、車の馬車の 行い方、あいさつに留意している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あべこべな時はあべこべに清掃している 価値も居るにちのよい空間を作っ ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は、基本本上の場所と位置づけ ている。このように使用に項目を職 員はオケンの回避には気を回している、 以外に7112は自由を尊重に支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 <input checked="" type="checkbox"/> 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	1-11-11-1の居室に、本人が使い やりやすい物品を設置す。又、使い 慣れた物を持参して頂く。		
84 <input type="checkbox"/> 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	24時間換気システムを導入している。 又 細かに空調管理は実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 <input type="checkbox"/> 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	1-11-11-1の館内で、本人の使い慣れた 家具を設置、本人の生活しやすいスペース 作りを。10名の自立を支援している。		
86 <input type="checkbox"/> わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	10名のケアプランの実施・実行し、その人の 能力に応じた自立を支援している。		
87 <input type="checkbox"/> 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに2日風呂や、中庭での栽培 ・植木の世帯管理を行っている。		

(部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- コミュニケーション充実 (fa & 利用者 & 肉付き職員全員)
- 知識の向上
- 個人の把握 (マイクロ情報も統一可)
- 日常生活 にくれもれを感らゆき様に支援を職員間(211C)